
箱の虫-ELFLT'15 (of Bleach)

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱の虫・E L F L T・15 (of B l e a c h)

【Nコード】

N 3 0 6 5 G

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

「漂白」@破面N o . 1 5を元に考えた詩です。

(前書き)

恐怖は常に私の中に

痛みの果てに、

矛盾の果てに、

私は何を想うのだろうか

風の止まない夜を喰む

月光に掠れる吭を薙ぐ

陰る衣に身を包み

醜い姿を夜光が嘗める

我々という存在は虚弱過ぎる骨の塊

それは摘まれた花に似て

蕾が綻ぶことを知らずに朽ちる

人の痛みを知る度に

己の心を削り落とし

矛盾の理由を知る度に

叫ぶ吭に虚空が穿つ

繰り返される

生誕と終焉

救いを求めてはならない

我々という存在は鉄を溶かす灼熱の憎悪

それは鞘を貫く刃に似て

浴びた血で陶醉することを知らずに錆びる

鋭く硬すぎるほどに

折れ易く誇りに耐えきれず

脆く軟らかすぎるほどに

貫く意志さえ砕け散る

優しい嘘と悲しい本当

私は一体なにを求めているのか

彷徨う聲はあなたに届かず

裂ける吭は迸る

哲理の刃が私を嘗めて

蒼い角が恐怖に臆する

兄弟よ、

我々は殺人的な醜い箱

兄弟よ、

我々は醒めない夜の眉

兄弟よ、

我々は否めない孤高の餌

それは等しき無限の悪夢

嵌まらずとも何も変わらぬ血濡れた道

銜う刃はあなたに触れず
零れる祈りは戦き怖じる
月夜の血潮が私を呑んで
蒼い角が突き砕く

全てが悉く裏腹に

無論、結末など存在していない

鬣が揺れる
鼓動が燃える

嗚呼、私の心臓はあなたの掌に握られている

痛みを知っているか
矛盾に問うのだ
姿無き己の神がその象徴

矛盾を知っているか
痛みに問うのだ
心無き神の礫がその万象

煽る狂気が浅い眠りに
醒めない恐怖を私に詰めて

痛みの果てに、
矛盾の果てに、
あなたは何を想うのだろうか

（後書き）

突き砕く刃に捧ぐ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3065g/>

箱の虫-ELFLT'15 (of Bleach)

2010年10月9日22時18分発行